

「主な取組の進捗状況・いわて復興インデックス」の公表について（概要）

【要旨】

復興推進プランの進行管理ツールとして公表している「主な取組の進捗状況・いわて復興インデックス(令和3年6月30日現在)」を取りまとめましたのでお知らせします。

1 復興道路の整備状況（安全の確保）[p19～p20]

令和3年7月10日に、三陸沿岸道路の「田野畑南IC～尾肝要IC」の区間（6km）が開通し、県内の復興道路は、事業化延長359kmに対して供用延長は334km、進捗率は93%となっている。三陸沿岸道路は、現在事業中の、「(仮)野田IC～久慈IC」の区間（延長12.0km）及び「普代～(仮)野田IC」の区間（延長13.0km）の完成により全線開通となる。

路線名	三陸沿岸道路	東北横断自動車道 釜石秋田線	宮古盛岡 横断道路	合計
事業化延長 [計画延長] (km)	213 [213]	80 [80]	66 [100]	359 [393]
供用中 (6.30時点)	延長(km)	182km	80km	66km
	率(%)	85%	100%	91%
<参考> 供用中 (7.10時点)	延長(km)	188km	80km	66km
	率(%)	88%	100%	93%



三陸沿岸道路（田野畑道路）開通式
令和3年7月10日開通

2 いわて被災者支援センター（暮らしの再建）[p23]

令和3年4月に開所した「いわて被災者支援センター」では、恒久的な住宅に移行後も生活面や経済面等の多様かつ複雑な課題を抱える被災者に対し、関係機関や専門家と連携して支援を行っている。

相談対応回数	189回	(R3.6月末現在)
--------	------	------------

<主な相談内容>

家族に関すること（65件）、家計に関すること（36件）、住宅・不動産に関すること（36件） など

3 水産業の振興に向けた取組（なりわいの再生）[p32]

県では、漁業の担い手を確保・育成するため、平成31年4月に「いわて水産アカデミー」を開講し、漁業就業を希望する研修生に、集合研修や現場で指導者から学ぶ実践研修などを行い、漁業に必要な技術や経営手法等を習得できるよう支援している。

○ 研修生の受入状況（R3.6.30現在）

	R元年度	R2年度	R3年度	合計
県内出身者	6人	4人	3人	13人
県外出身者	1人	2人	4人	7人
合計	7人	6人	7人	20人

※1 R元年度及びR2年度は修了生の人数、R3年度は研修中的人数

※2 修了生全員が、県内の定置網漁業、養殖漁業、漁船漁業に就業



実践研修（定置網漁業）

4 震災伝承の取組、復興支援感謝パスポート（未来のための伝承・発信）[p39、p42、p44]

(1) 震災伝承の取組

令和元年9月22日に開館した東日本大震災津波伝承館では、令和3年6月末現在の来館者総数は370,297人となっている。また、本県においては、6月末までに108件の施設が震災伝承ネットワーク協議会による「震災伝承施設」として登録されており、東日本大震災津波から得られた事実と教訓の伝承に取り組んでいる。

○ 東日本大震災津波伝承館の取組状況

企画展開催回数（R1～）	(R3.6.30現在)	15回
来館者数（R1～）	(R3.6.30現在)	370,297人

※ R3.8.12現在 397,239人



高田松原津波復興祈念公園では、6月から「奇跡の一本松」や震災遺構「気仙中学校（写真左）」、「タビック 45（写真右）」の構内などを案内する高田松原津波復興祈念公園パークガイド事業が開始された。

(2) 復興支援感謝パスポート

令和3年7月、県では、全国へ復興支援の感謝などを伝えるため、掲載店舗・施設で割引サービス等が受けられる特典付きの「いわて復興支援感謝パスポート」を発行し、これまで復興支援いただいた全国の自治体及び企業等に配布した。（発行部数50,000部）

このパスポートには、沿岸被災地からの復興支援に対する感謝メッセージや、沿岸13市町村の観光施設、飲食店等、100軒の情報などを掲載している。



復興支援感謝パスポート

5 主な経済指標の状況

(1) 沿岸地域の有効求人倍率（沿岸）＜復興インデックス＞

令和3年6月における沿岸地域の有効求人倍率（原数値）は前回基準月（3月）と比べると0.08ポイント増の1.07倍となっている。

	令和元年 6月	9月	12月	令和2年 3月	6月	9月	12月	令和3年 3月	6月
有効求人倍率	1.20	1.33	1.36	1.01	1.00	1.10	1.18	0.99	1.07
前回差	-0.03	+0.13	+0.03	-0.35	-0.01	+0.10	+0.08	-0.19	+0.08

(2) 県内主要観光地における観光客入込客数（全県）＜復興インデックス＞

令和3年4月～令和3年6月における県内主要観光地入込客数は55.6万人回であり、前年同期間比で36.2万人回の増となっている。

	平成31年4月 ～令和元年6月	令和2年4月 ～令和2年6月	令和3年4月 ～令和3年6月（暫定値）
入込客数 (前年同期比増減率)	164.2万人回	19.4万人回 (-88.2%)	55.6万人回 (+186.7%)

(3) 新規高等学校卒業者の県内就職者数の割合（沿岸地区安定所）＜復興インデックス＞

令和3年3月卒業の新規高等学校卒業者における県内就職者数の割合は75.0%であり、昨年度との比較では、8.6ポイントの増となっている。

安定所別	平成24年3月 卒業	平成26年3月 卒業	平成28年3月 卒業	平成30年3月 卒業	平成31年3月 卒業	令和2年3月 卒業	令和3年3月 卒業
沿岸	46.2%	60.0%	59.8%	63.3%	65.4%	66.4%	75.0%
内陸	62.1%	65.9%	65.6%	66.6%	70.2%	69.1%	70.4%
県全域	57.8%	64.4%	64.1%	65.8%	69.0%	68.5%	71.4%

【担当】総括的事項 参事兼復興推進課総括課長 大坊
記載内容等 主幹兼推進担当課長 米内（019-629-6935）

令和3年第2回「いわて復興ウォッチャー調査」結果について（概要）

【要旨】

復興推進プランの進行管理の一環として実施する「いわて復興ウォッチャー調査」（令和3年第2回（調査時期：令和3年7月））の結果を取りまとめましたのでお知らせします。

前回調査（調査時期：令和3年1月）との比較結果は、以下のとおりです。

- ・「被災者の生活」の「回復した」「やや回復した」の合計は85.7%と1.4ポイント増
- ・「地域経済」の「回復した」「やや回復した」の合計は49.6%と6.6ポイント減
- ・「災害に強い安全なまちづくり」の「達成した」「やや達成した」の合計は76.8%と5.7ポイント増

I 調査目的等

目的： 東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を実施するもの。

調査対象： 沿岸12市町村に居住または就労している方、153名（原則毎回同じ方を対象）

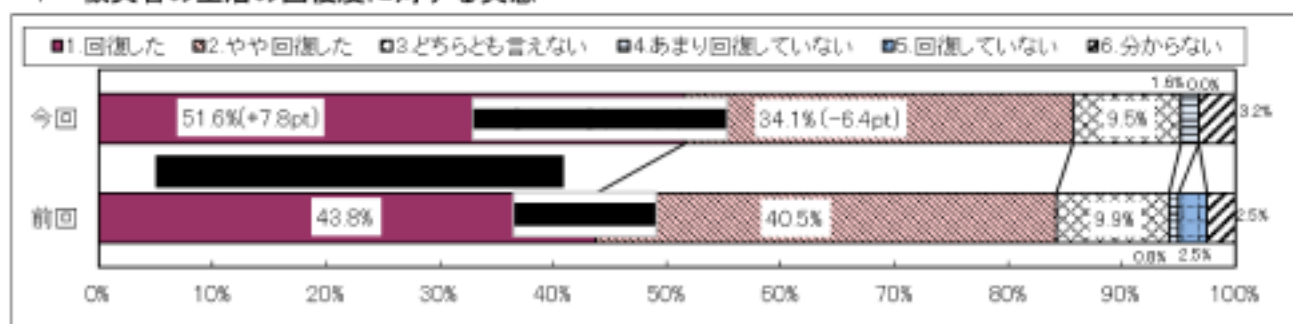
調査時期： 令和3年7月

調査方法： 郵送法（回収率82.4%（126名/153名））

<前回79.7%（122名/153名）※令和3年1月調査>

II 調査結果の概要

1 被災者の生活の回復度に対する実感

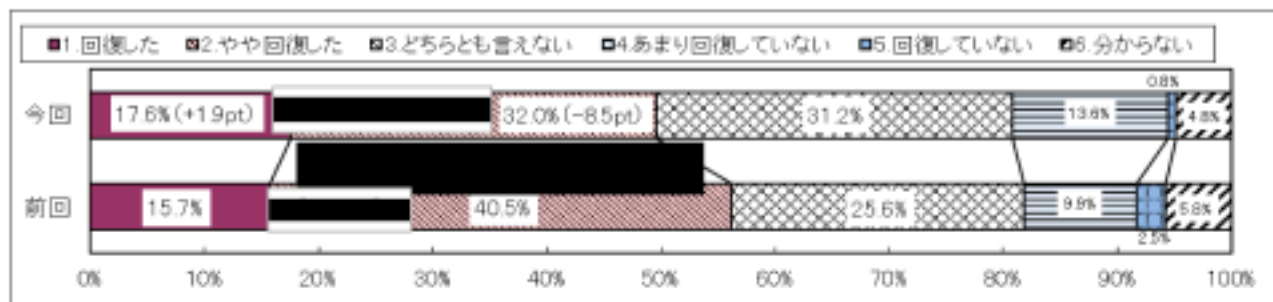


復興道路の延伸や恒久的な住宅への移行など生活基盤の整備が進んでいることを評価する一方で、新たなコミュニティの形成や被災跡地の活用に課題があるとの声や、新型コロナウイルス感染症や不漁の影響による水産業の収入減を指摘する声があった。

主なコメント

- 三陸復興道路が全線開通まであと一歩という状況になったから。
（回復した・進んでいる：50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部）
- 自宅の再建や災害住宅への入居により、住まいは落ち着いた。地域での高齢者のサロン活動等も、活発に行われるようになった。（回復した・進んでいる：40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部）
- 漁業については、震災前より収入が減少している。アワビ・ウニ・サケ・イカ等すべてが不漁になり、また、コロナの影響で価格が下がり、大幅な収入減となっている。
（やや回復した・やや進んでいる：50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部）
- これで再建は終わりのかと虫喰い状態の土地の町を見て、今後が不安になる。
（やや回復した・やや進んでいる：39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部）
- 新型コロナウイルスの感染対策として「人と会わない」、「出かけない」状態が1年以上続き、コミュニティ面で大きな影響を受けていると感じる。
（どちらとも言えない：39歳以下、産業・経済・雇用関連、沿岸北部）

2 地域経済の回復度に対する実感

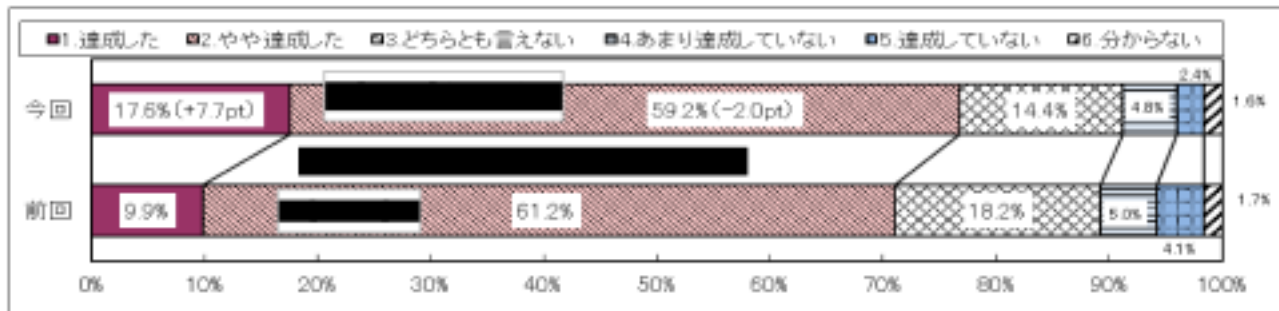


農業や水産業等の生産基盤の整備や中心市街地での店舗・事業所の再建などが進んだとの声がある一方で、水産業の不漁に加え、復興需要の縮小を実感する声があった。また、新型コロナウイルス感染症の影響については、飲食業や観光業をはじめとしたさまざまな業種で打撃を受けているとの声があった。

主なコメント

- 農業は水田等の基盤整備がほぼ完備し、圃場の規格整備、農業機械の導入の支援により、震災前より生産性が高まり、農作物の販売額も安定した。
(回復した・進んだ：60歳以上、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)
- 中心市街地への店舗・事業所の再建は着実に進んでいる。観光施設もオープンしており、交流人口拡大に向けた準備は整いつつある。アフターコロナに向け、各事業者が前進していると感じる。
(やや回復した・やや進んだ：50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)
- 震災学習・観光など、被災地で取り組んでいた活動が新型コロナの影響で出来なくなり、地域経済にダメージである。(どちらとも言えない：39歳以下、産業・経済・雇用関連、沿岸北部)
- 復旧工事の完了とともに工事作業員が撤収し、商店の売上が減少している。
(あまり回復していない・あまり進んでいない：50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部)
- 水産業では、記録的な不漁のなかコロナ禍による消費低迷により、業態の悪化に歯止めがかからない。
(回復していない・進んでいない：50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部)

3 災害に強い安全なまちづくりの達成度に対する実感



防潮堤や復興道路などハード面の整備が進んだことを評価する声があるほか、防災意識を高めるための取組や津波以外の災害への備えの必要性を指摘する声が多かった。

主なコメント

- まちづくりの進展、観光施設の完成と並行し避難経路図の掲示、避難訓練も実施されており着実に進んでいる。三陸道の延伸は避難方策の充実に加え、産業・観光面へのプラスが大きい。
(やや達成した・やや進んでいる：50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)
- 私は消防団員も務めており、先日河川水門の運用説明会に参加した。「操作盤の扉を開けただけで各関連機関に異常通報が入る」とのことで、しっかり遠隔管理されているんだと実感できた。
(やや達成した・やや進んでいる：40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)
- 施設や道路もできたが、だんだん心の中の防災意識が薄れてきている気がするので、定期的に防災意識を高める機会が必要だと思う。
(どちらとも言えない：40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)

いわて復興ウォッチャー・動向判断指数（D I）の推移

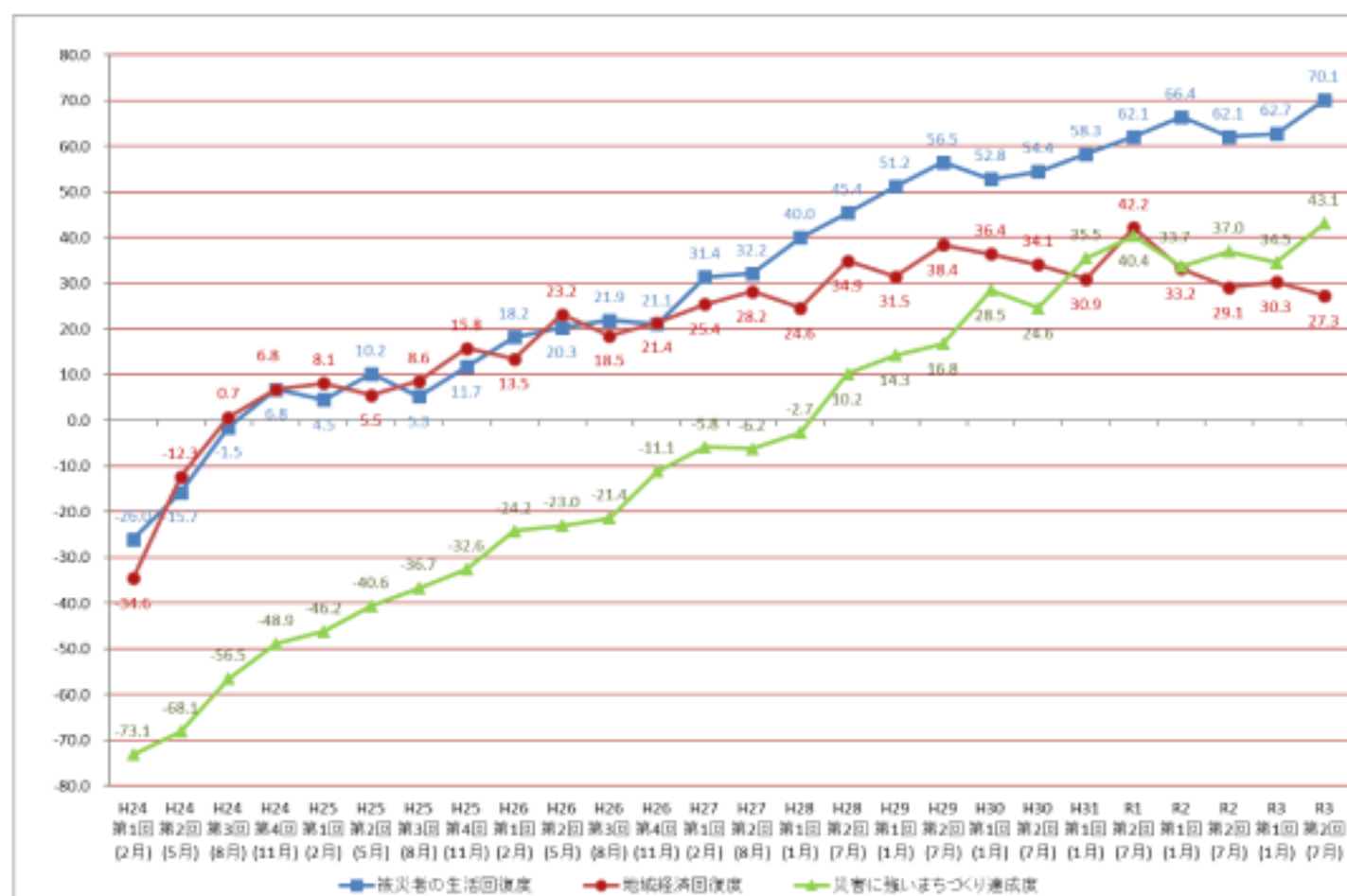
＜動向判断指数（D I）＞

掲載する折れ線グラフは、各回の動向判断指数（D I）について時系列にその推移を表わしたものである。

動向判断指数（D I）は、「回復した」の回答数がA、「やや回復した」の回答数がB、以下「どちらともいえない」がC、「あまり回復していない」がD、「回復していない」がEのとき、次の式で算出する

$$\text{動向判断指数（D I）} = \{ (A \times 2 + B) - (D + E \times 2) \} \div 2 \div (A + B + C + D + E) \times 100$$

（注）上記「回復した」は、設問によって「達成した」「進んでいる」等となる（他の選択肢についても同様）。



※ 平成27年第1回調査までは直近3ヶ月間、平成27年第2回調査以降は直近6ヶ月間（今回は、おおむね令和3年1月～令和3年7月）を指す。